

原水爆禁止 2020 年世界大会（オンライン）参加予定海外代表の プロフィール

2020 年 7 月 22 日

世界大会実行委員会事務局 国際部



中満 泉（国連事務次長・軍縮問題担当上級代表）

1989 年国連難民高等弁務官事務所に入所したのを皮切りに、国連のキャリア職員として、国連 PKO、国連開発計画などでさまざまな要職を歴任。2017 年、グテーレス国連事務総長により軍縮問題担当の国連事務次長に任命された。原水爆禁止大会には、2017 年世界大会－長崎に初めて参加し、開会集会でメインスピーカーとして発言。今年 4 月に行われた世界大会－NY（オンライン）にも参加。

トーマス・ハイノッチ（オーストリア欧州統合外務省 軍縮軍備管理不拡散局長／軍縮大使）

2013 年 4 月より、オーストリア国連欧州本部常駐代表をつとめる。2017 年に開かれた国連核兵器禁止条約交渉のオーストリア政府代表団長として会議に参加し、7 月 7 日の条約採択につながった人道イニシアチブの推進で重要な役割を果たした。原水爆禁止 2018 年世界大会に初めて参加し、ヒロシマデー集会で発言。



サイエド・ハスリン・アイディド（国連マレーシア政府 代表部常駐代表／国連大使）

2019 年 7 月より現職。2019 年春に開催された 2020 年 NPT 再検討会議第 3 回準備委員会で議長を務め、被団協代表から「ヒバクシャ国際署名」を受け取った。2019 年 7 月に来日し、原水協を含む日本の NGO 代表と懇談。

2021 年 1 月に延期された NPT 再検討会議で、NPT の三本柱のうち核軍縮問題を扱う主要委員会 I の議長。



ベアトリス・フィン 核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) 事務局長

スウェーデン・ヨーテボリ生まれ。同世代の移民や難民と接するなかで、国際情勢に関心を持つようになり、ストックホルム大学で国際関係を専攻、ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドンで国際法の修士号を取得。2009年にジュネーブの婦人国際平和自由連盟（WILPF）にてインターンシップに参加。翌年 WILPF に人権活動家として入職し、軍縮問題を担当。2014年、核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）に移籍し事務局長を務める。ICAN が 2017 年ノーベル平和賞を受賞を受け、同年 12 月 10 日授賞式で演説。原水爆禁止世界大会には初めての参加。

サーロー節子（広島被爆者 カナダ・トロント在住）

13 歳の女学生の時広島で被爆。多くの学友だけでなく、姉と 4 歳の甥を失う。アメリカの大学留学ののちカナダに移住。1950 年代後半以来、被爆体験を語るとともに、世界中で平和軍縮活動に携わる。カナダ勲章受章者。平和を目ざす女性の声、カナダ・パグウォッシュ会議、トロントヒロシマデー連合などで活動。原水爆禁止世界大会には何度も参加してきた。日本被団協、谷口稜暉さんとともに 2015 年ノーベル平和賞に推薦された。2017 年国連核兵器禁止条約交渉会議に参加し被爆者として発言。活動とともにしてきた ICAN が 2017 年にノーベル平和賞を受賞し、同年 12 月オスロで開かれた授賞式で演説。



ドン・ファイ・クオン（ベトナム平和委員会事務局長）

ベトナム平和委員会とベトナム平和開発基金の事務局長を務める。ジャーナリズムを専攻し 2012 年から社会運動家として活動。アジア・ヨーロッパ人民フォーラムの国際組織委員会メンバー兼コーディネーター。2014 年より ASEAN 人民フォーラムの地域組織委員会メンバーもつとめる。特に力を入れている分野は、平和教育、戦争犠牲者への支援、核兵器・大量破壊兵器の廃絶。2013 年以来、原水爆禁止世界大会に参加。

アヌラダ・チェノイ（アジア・ヨーロッパ人民フォーラム インド）

ジャワハルラル・ネルー大学国際関係学部の教授で、前学長。専門はロシア・中央アジア研究と安全保障、人間の安全保障、軍事化、外交政策、平和と紛争学、ジェンダー問題で、多くの著書、研究論文がある。アクション・エイド、アジア・ヨーロッパ人民フォーラム、女性と国際安全保障と平和などの市民社会組織で活動してきた。



ケイト・ハドソン（核軍縮キャンペーン=CND 事務局長 イギリス）

1958 年リーズ生まれ。2003 年から 2010 年まで CND 議長・サウスバンク大学教授をつとめたのち現職。統一左翼党のメディア担当、戦争ストップ連合の役員もつとめている。著名な反核・反戦運動のリーダーであり、「CND の 60 年：英国で最も永続する大衆運動」の著作がある。2003 年の世界大会に参加。



ライナー・ブラウン（国際平和ビューロー=IPB 事務局長）

ドイツ文学、歴史、ジャーナリズムを専攻。1982 年から平和運動に積極的に参加し、科学者、法律家団体など様々な組織で活動してきた。2013 年 9 月から国際平和ビューロー（IPB）の共同議長、2019 年 11 月からは事務局長をつとめている。2016 年 9-10 月にベルリンで開かれた IPB 世界会議「平和の機運のために軍縮を」を中心となって組織。ドイツの平和運動を代表し、ラムSTEIN 米空軍基地反対キャンペーンや反 NATO キャンペーンを組織してきた。



イ・ジュンキュ（韓神大学統一平和政策研究院前任研究員 韓国）

2003 年から 2010 年までは、平和ネットワーク（NGO）の政策室長と運営委員を務めた。2008 年から 2009 年にかけて日本の明治学院大学で研究。核関連問題、南北朝鮮関係、東アジアに関する国際政治について、Redian, PRESSIAN, Ohmynews, ハンギョレ 21 などのインターネットメディアや時事雑誌、定期刊行物に数多くのコラムや記事を執筆してきた。民主労働党、新進歩党、緑の党など、韓国で生まれた革新系政党の政策作りに積極的に関わってきた。高麗大学で政治学と国際関係学の学位を得たのち、同大学院で政治学の修士号を取得。さらに



ソウルの北韓大学院で博士課程を修了。世界大会には何度も参加しており 2016 年からは世界大会、3・1 ビキニデー集会に連続して参加。2019 年 5-6 月ソウルで開かれた「非核・平和のための日韓国際フォーラム」の韓国側実行委員会の統括役割を果たした。



**カルロス・ウマーニャ（核戦争防止国際医師会議
=IPPNW ラテンアメリカ担当副議長 コスタリカ）**

コスタリカ IPPNW の議長。産婦人科医師としてプライマリーケアと特殊ケアに従事した経験から、コスタリカ保健省の医療局長を務めた。医師であるだけでなく、コスタリカ大学で美術を専攻し、現在は医療翻訳者・ビジュアルアーティストとしても活動している。コスタリカ外務省ほか、核軍縮問題に取り組む地方、地域、世界的組織と緊密に協力して活動している。2020 年 4 月に開かれた原水爆禁止世界大会 NY(オンライン)にスピーカーとして参加。

**フィリップ・ジェニングズ（国際平和ビューロー 共同
会長）**

サービス産業労働者を組織する UNI グローバルユニオンの書記長を 2000 年から 2018 年まで務め、2010 年には UNI 世界大会を長崎で開催。広島市・長崎市から平和特使の称号を授与され、長崎の高校生をジュネーブに招くなど、労働運動の中で反核平和の課題を強調し、特に長崎と強い絆がある。2019 年に IPB 共同会長に就任し、労働運動と平和運動の共同に情熱を傾けている。世界大会には初の参加。イギリス・ウェールズ出身。



ジョージ・フライデー（ピースアクション 全国理事）

権利憲章擁護委員会組織担当、独立進歩政治ネットワーク調整委員を務める。米国緑の党の黒人・女性部会共同議長。2005 年世界大会に全米平和正義連合共同議長として参加。8 月 6 日が誕生日。

ジョゼフ・ガーソン（平和・軍縮・共通安全保障キャンペーン／アメリカフレンズ奉仕委員会 アメリカ）

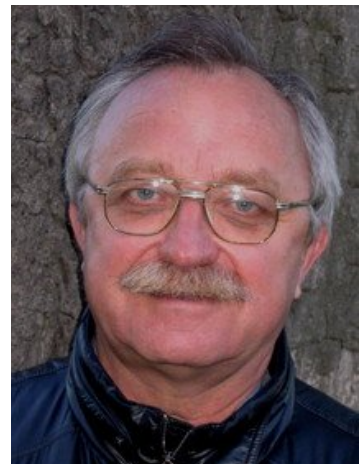


長年、アメリカフレンズ奉仕委員会の経済安全保障プログラム責任者をつとめ、現在、平和・軍縮・共通安全保障キャンペーン議長、国際平和ビューロー副会長、平和と地球国際ネットワークの共同議長などをつとめている。核兵器廃絶、大国間の緊張、在外米軍基地、国防支出問題に焦点を当てて米国の外交・軍事政策への平和で公正な代替案を組織し啓蒙している。NPT 再検討会議第3回準備委員会の際にはニューヨークで「変わりゆく世界に高まる核の危険：新たな思考と運動の構築」会議を主催。

「帝国と核兵器」「ザ・サン・ネバー・セッツ：世界を覆う米軍基地」などの著書があり、アトミック・サイエンティスト誌、ボストン・グローブなど各紙で多くの記事が掲載されている。原水爆禁止世界大会には 1985 年以来、ほぼ毎年参加。2020 年 4 月に行われた世界大会 NY（オンライン）の組織に中心的役割を果たした。

オレグ・ボドロフ（フィンランド湾南岸公共評議会／映画監督 ロシア）

1976 年レニングラード工科大学で工学・物理学を学んだ後、原子力潜水艦の試験に携わる。1986 年にチェルノブイリ事故後の汚染地帯を訪問した後、原子力業界から離脱。環境保護運動に加わり、ロシアの原発の安全な廃炉と放射性廃棄物の最終処理を求める NGO で活動。ロシアの核開発が引き起こした多くの健康被害、原発の使用済み核燃料から生じる北ヨーロッパ全体の汚染などについて告発する映画を製作してきた。（「不毛の地」、「ハンヒキヴィ」は原水協が日本語版を製作。）2010 年に「核のない未来賞」を受賞。



レイ・アチソン（婦人国際平和自由連盟＝WILPF／リーチング・クリティカル・ウィル 責任者）

WILPF リーチング・クリティカル・ウィル責任者として、様々な軍縮問題に反戦・フェミニストの観点から分析、研究、政策提言を行っている。WILPF 代表として ICAN、殺人ロボット反対キャンペーン、爆発性兵器に関する国際ネットワークの運営委員を務めている。トロント大学で平和・紛争学を専攻し、社会研究のためのニュースクール大学で政治学修士号を取得。2018 年に国連女性メトロニューヨーク「変革チャンピオン」に選出された。

ペドロ・アローホ（ポデモス前国会議員 スペイン）

1951 年マドリード生まれ。物理学博士。サラゴサ大学教授で専門は水資源経済学。2015 年、2016 年総選挙で当選し、ポデモス副代表として農業・食料・環境委員会委員長、国際開発協力委員会メンバーを務めた。



ロラン・ニベ（フランス平和運動 全国書記）

レンヌ在住。ブレストにある仏海軍原潜基地前でヒロシマデー行動、NATO ノー行動を毎年組織してきた。1995 年以来、2017 年を含め世界大会に何度も参加。2017 年日本原水協ヨーロッパ被爆者遊説団のフランス側コーディネーター。